

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

●新規・拡大事業の実績報告

基本目標	事業名称	担当課	事業概要	平成22年度～平成26年度のみまとめ	
I 子どもにとって安らげる家庭・家族であること	I-1 子育ての充実感を持つことができる				
	1	子育てホームページ事業	子育て支援課	<p>子育てに関する情報は、雑誌やインターネットなどで入手しやすくなっている一方、子どもの育ちは一人一人違うことによる発達の違いや、自分の育児の的確な情報を得る機会が少ないために不安を感じる保護者もいます。</p> <p>市では、ホームページによる子育てに関する情報発信の一元化を図っています。このホームページをより一層充実するとともに、インターネットを活用して個人個人が必要な情報の提供や知りたい情報が的確に取得できるシステムを構築します。</p>	<p>・子育て情報サイト「まつどあ」に、子どもの成長曲線や日記がつけられ、子どもの年齢や居住地域によって個別の情報が得られるマイページ機能「myまつどあ」を付加しました。また、携帯電話やパソコンにメールで子育て情報をお届けする「こどもあ」を提供開始しました。</p> <p>・関係各課がスムーズに情報発信を行えるようにし、掲載情報の充実を図りました。</p> <p>・子育て支援に関して頻繁に寄せられる質問をFAQにまとめて掲載しました。</p> <p>・特集記事の掲載など、子育て情報の充実を行いました。</p> <p>●アクセス数: 月平均 95,244件 ●メール登録者数: 1,347人 (平成27年3月末現在)</p>
	2	子ども読書推進センター	図書館	<p>幼児・児童読書普及事業の推進を図るため、「子ども読書推進センター」を設置し、児童読書活動を行うボランティア等に対する支援を充実します。</p>	<p>・平成22年3月 子ども読書推進センターの開設。</p> <p>この「子ども読書推進センター」は、子どもたちが読書の楽しみを知り、生涯にわたる読書習慣を身につけられるように、家庭や地域での幼児・児童への読書普及活動を行うことや、ボランティアの支援を目的とした施設です。読書活動推進活動や、ボランティア等に対する支援の充実にも努めました。</p>
	3	乳幼児一時預かり事業の拡充	子育て支援課 幼児保育課	<p>子育て中の保護者の負担感の軽減やリフレッシュを目的として、理由を問わず、未就学児を4時間まで預かる乳幼児一時預かり事業を拡大します。</p>	<p><E-こどもの森・ほっとる一む等></p> <p>・4ヶ所の一時預かり実施施設を開設しました。</p> <p>●利用者数: 15,625人(平成22～26年度)</p> <p><保育所(園)></p> <p>・新たに7ヶ所で保育所(園)での一時預かりを実施しました。</p> <p>●実施箇所数: 14ヶ所 利用者: 6,507人(平成26年度)</p>
	4	ファミリー・サポート・センター事業の充実	子育て支援課	<p>ファミリー・サポート・センター事業は、利用会員に対し、提供会員が不足しがちです。出産直後の支援制度と育児支援制度の機能の充実や対象年齢拡大などのより利用しやすい仕組みを構築します。</p>	<p>・「出産直後の支援制度」の対象を産後4か月までに拡大し、ファミリー・サポート・センターで行う「育児支援制度」の利用にスムーズに移行できる仕組みに変更しました。</p> <p>・「育児支援制度」での複数児預かりや援助会員宅での援助等、機能を拡充しました。</p> <p>・「子育て支援スタッフ養成講座」の修了者を提供会員に登録し、子育て支援に意欲のある人がファミリー・サポート・センター事業に参画する仕組みを整えました。</p> <p>・事務局と提供会員の仲介を行う地域リーダーの活動が柔軟に行えるよう調整会議を充実させ、提供会員と利用会員のマッチング率の向上を図りました。</p> <p>●会員数: 1,219人(平成27年3月末現在)</p> <p>・利用会員数: 765人 ・提供会員数: 434人 ・両方会員数: 20人</p> <p>●活動実績: 8,756件 (平成27年3月末現在)</p>
5	授乳・おむつ替えスペース(赤ちゃんぼけっと)の提供事業	子育て支援課	<p>乳幼児を連れた保護者の方が、安心して出かけることができるように、市内の施設で授乳とおむつ替えができるスペースを提供しています。</p> <p>市内の公共施設や商業施設などの提供する施設を拡充します。</p>	<p>・子育てガイドブックにおいて実施している公共施設・商業施設を全て掲載し、周知を行いました。</p> <p>●実施施設数: 112箇所(平成27年3月末現在)</p>	

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

基本 目標	事業 名称	担当課	事業概要	平成22年度～平成26年度のまとめ
I-2 親として子どもを育てる力<親力(おやぢから)>を向上する				
6	父親のための 情報提供	男女共 同参画 課	父親になる人が、親として子どもを育てる力を育むことへの支援として父子手帳を作成し、発行します。また、子育て支援事業の情報誌やパンフレットにも父親の子育て支援を含め、子育ての知識や心構えのなどの情報を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 パパ手帳を作成・配布 平成25年度 パパ手帳を改訂・配布 平成26年度 パパ手帳を改訂・配布(2,000部) パパ手帳を市内子育て支援施設、伊勢丹、県立向陽高校などで配布しました。 まつど子育てフェスティバル2015において企画(「パパと手形をとろう!」)を実施しました。パパ手帳の中にある手形を押すページをPRすると共に、パパ手帳の広報に努めました。
7	ひとり親家庭 支援ネット事業	子育て 支援課 子ども 家庭相 談課	ひとり親家庭に対する様々な支援制度等に総合的に対応するため、ひとり親の家庭に対する支援のコーディネートをする仕組みを構築します。	<ul style="list-style-type: none"> 児童扶養手当現況届けの受付の際に、母子・父子自立支援プログラム策定員兼就労支援専門員による相談も同時に実施し、就職活動や仕事についてのアドバイスを行いました。 ●相談数: 411件 (平成27年3月末現在)
I-3 親が子どものために家庭と仕事を両立ができる環境を整える				
8	保育事業の 充実	幼児保 育課	<p>保育需要に応じ、認可保育所を整備していくと共に、多様な就労形態に適應できるように一時預かり・特定保育の充実はもとより、延長保育や休日保育についても検討を進めていきます。また、耐震化対応など施設の老朽化対策を推進します。</p> <p>公立保育所の民営化については業務委託中の保育所の移管を進めると共に、社会環境の変化に応じ対応していきます。</p>	<p><保育施設数></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年間で新たに保育所(園)8園、小規模保育事業4園を開設しました。 ●保育所(園): 55園 小規模保育事業: 4園 定員: 5,281人 (平成26年度) <p><延長保育事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年間で新たに19園で延長保育事業を実施しました。 ●実施施設: 55園 利用者: 22,506人 (平成26年度) <p><特定保育事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 5年間で新たに7施設で特定保育事業を実施。 ●実施施設: 14ヶ所 利用者: 9,181人 (平成26年度)
9	放課後児童ク ラブ事業の充 実	子育て 支援課	<p>放課後児童クラブは、利用する児童の自立性や創造性などを養うことを目的とする事業として、質の向上を推進します。そのために、専門家等による事業評価に基づき、運営法人と連携してクラブ事業の質の向上を推進していきます。</p> <p>また、老朽化した施設や小学校から遠距離にある施設の改修等の対策を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校外にある施設を学校内に移転しました。(平成22～26年度 合計8ヶ所) 平成22年度 新松戸 1ヶ所 平成23年度 大橋、あかしあ(新松戸西) 2ヶ所 平成24年度 牧の原、六実第三 2ヶ所 平成25年度 風の子(常盤平第三) 1ヶ所 平成26年度 八ヶ崎、常盤平第二 2ヶ所 老朽化に対応し、施設修繕を行いました。(平成26年度 6ヶ所) 平成26年7月、「松戸市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を制定しました。 ●設置数: 44ヶ所(市内全小学校) ●利用人数: 2,959人(平成27年3月末現在) ●学校内施設数: 42ヶ所(近隣公用地含む)
I-4 虐待等が起こらないようにする				
10	児童家庭支 援センターと の連携	子ども 家庭相 談課	子育てに不安を感じている保護者への助言、指導、調整および、一時的な保護をする児童家庭支援センター(児童養護施設晴香園)と千葉県柏児童相談所と松戸市子育て支援課家庭児童相談室(現・子ども家庭相談課)との連携を図ります。	平成22年9月、東葛地域初の児童家庭支援センター「オリーブ」が県の認可を受けて発足し、子育て相談や、心についての相談受付を開始しました。児童家庭支援センターとの連携を図るとともに、利用者に向けて施設の周知を図りました。

I 子どもにとって安らげる家庭・家族であること

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

基本目標	事業名称	担当課	事業概要	平成22年度～平成26年度のまとめ	
II-1 子どもが安心して過ごすことができる地域をつくる					
II 子どもから広がる地域づくり	11	地域放課後児童支援事業の実施	子育て支援課	小学生が地域で安全で安心して健やかに育まれるように、学習やスポーツ、文化活動等のさまざまな事業を行い、子どもから広がる地域の子育て力を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後KIDSルーム実施校を新設しました。 ●登録者数:495人(平成27年3月末現在) ●施設数:10ヶ所(週4回) H22 上本郷第二、和名ヶ谷、六実第二 3ヶ所 H23 河原塚 1ヶ所 H24 相模台、根木内、横須賀 3ヶ所 H26 東部、梨香台、大橋 3ヶ所
	12	子育て応援大作戦～まつドリム事業	情報政策課 市民課 商工振興課 子育て支援課	<p>子育てをすることが楽しく幸せに感じることができるよう、市内商業施設・地域の方々等と連携し、ホームページでの情報提供を行いながら、子ども達を暖かく見守り、子育てを応援する取組を構築します。</p> <p>※主な活動内容 子育てみらいカード導入による企業のサービスと、既に実施されている「赤ちゃんぽけっと」「こども110番」事業などを一体化した、応援ネットワークを構築します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年10月より子育てみらいカードの発行開始しました。 ・市内商店会及び商業施設へ子育てみらいカードへの協賛を呼びかけ、提供サービスの拡大を図りました。 ・子育て情報サイト「まつどあ」では、ブラウザ対応改修、イベントでのPR、乳幼児一時預かり施設の増加などにより、実績値が増加傾向となりました。 また子育てみらいカードや協賛店についてのレポートを掲載し、市民目線での情報を提供することができました。 ・(社)松戸市シルバー人材センターが作成した「まつドリ」の携帯ストラップを、市役所内売店にて販売しました。 ●みらいカード有効枚数: 5,851件(平成27年3月末現在) ●コンビニ交付証明書発行枚数: 平成22年度511枚→平成26年度8,644枚 ●協賛店数: 352店舗(平成27年3月末現在) ●乳幼児一時預かり件数: 15,625人(平成22～26年度) ※平成22年度は下半期からの実施。
	II-2 子どもとのふれあいを通じて人々がつながる多様なネットワークができる				
	13	地域子育て拠点の充実と子育てコーディネーター事業の推進	子育て支援課	地域子育て支援センターとおやこDE広場は、乳幼児とその保護者のための施設として、様々な情報の発信や子育てコーディネーターの配置など子育て支援の拠点として位置付けます。子育て中の保護者が楽しく子育てし続ける事ができるように、おやこDE広場、地域子育て支援センターをはじめ、公園、施設など子どもを連れて遊びに行くことができる場所を充実するとともに、乳幼児を対象としたイベントや子育てサークルの支援なども充実します。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域子育て支援拠点箇所数:19ヶ所(平成27年3月末現在) ●コーディネーター設置箇所数:19ヶ所(平成27年3月末現在) ●コーディネーター人数:45名(平成27年3月末現在) ・子育てに関する関係機関との情報交換会を実施し、地域との連携の強化を図りました。 ・コーディネーターフォローアップ研修を実施することにより、コーディネーターの質の向上に努めました。
	子育て応援大作戦～まつドリム事業(再掲)	情報政策課 市民課 商工振興課 子育て支援課	(上記のとおり)	(上記のとおり)	
14	子育て支援スタッフ養成講座	子育て支援課	子育て支援スタッフ養成のための講座を実施し、講座修了生や保育士、幼稚園教諭等すでに資格を持っている人をネットワークに登録し、市内子育て支援事業の様々な場で活躍できるような人材バンクを創設します。	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフ養成講座修了者数:181名(平成22～26年度) ●人材バンク登録者:217名(うち就労者数109名)(平成22～26年度) ・毎年養成講座を開催することにより、松戸市の子育て支援に関わる人材の育成と確保に努めました。 	
15	学校支援地域連携事業	教育企画課	学校の求めと地域の実情に応じた、学校・家庭・地域が一体となった学校支援環境の整備を推進する地域組織のあり方を研究していきます。子どもが地域の大人たちとのふれあうことや多様な経験をすることにより生きる力が育成されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が主体となって学校支援ボランティアとして活動し、学校と連携することにより、各地域の実態に合った活動が行なわれ、地域の教育力の向上が図られました。 [活動内容]:読み聞かせボランティア、環境美化ボランティア、地域安全ボランティア、世代交流会、学習支援など 	

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

基本目標	事業名称	担当課	事業概要	平成22年度～平成26年度のまとめ	
Ⅲ 全ての子どもが自分らしい夢を持てるようになる	Ⅲ-1 子どもが学ぶことが楽しくなる				
	16	小中学校の学力レベルの向上	指導課	<p>全国学力学習状況調査における、松戸市の児童生徒の学力はほぼ全国と同じ傾向です。基礎的・基本的な問題の正答率は高く、応用的な問題の正答率が低い傾向にあります。松戸市教育委員会として引き続き基礎学力の一層の定着と応用力の向上に取り組んでいきます。</p> <p>また、学習規律や家庭学習の習慣等が学力に影響しています。学校では授業の改善や学習規律の確立の取組を行うとともに、基本的な生活習慣について家庭への協力を求めていく必要があります。</p> <p>教育委員会は、学校への授業力向上への取組や生徒指導体制確立への支援を図っていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度より、英語分野と日本語分野からなる「言語活用科」を立ち上げ、その研究に取り組んできました。 ・市教委計画訪問を実施するとともに、各種研修会を実施し、各学校の教職員の指導力の向上に努めました。
	17	教育的ニーズに応じた子どもへの支援の充実	教育研究所	<p>一人一人の自立と社会参加を目指し、教職員の専門性を向上させ、校内体制を整備していきます。さらに個別の指導計画を作成し、個に応じた指導・支援を行っています。巡回相談の充実とともに関係機関との連携を図りながら支援を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の増設や特別支援教育支援員の増員等により、専門的な指導の場や支援体制の拡大・充実を図りました。「特別支援教育サポートQ&A」を作成し、個の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図りました。県の特別支援アドバイザーや特別支援学校特別支援教育コーディネーターによる巡回指導を実施し、学校の支援体制や指導の充実が図られました。
	Ⅲ-2 子どもが色々な生き方を学ぶことができる				
	18	こどもフォーラム事業	子どもわかもの課	<p>子どもが自分らしい夢を持ち、それに向かって努力することができるようになるために、将来の自分について具体的に考え、意見交換し、発表する機会を作ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度から開始し、小中学生が参加し、松戸の施策について意見を発表しました。 ・平成25年度には21世紀の森と広場を実際に見学する場を設け、子どもにとって楽しめる場所にするためにはどのようなことをしたらいいかを話し合い、市長に直接提案する機会を提供しました。その後実施した「森のこども館」において、提案内容の一部を反映させて実施しました。
	19	児童生徒ふれあい事業	指導課	<p>平成21年度に実施したこどもフォーラムからの意見です。子ども達から、「松戸市内のいろいろな地域の子もたちと友達になり、より多くの体験や経験をすることで自分の夢を見つけていきたい」との意見が出されました。</p> <p>松戸市教育委員会の取り組んでいるスポーツ・文化・芸術活動などの機会を通して市内他校の児童生徒が切磋琢磨するとともに、認め合い、励まし合うことのできるふれあい活動を推進していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教員が小学校への出前授業を行ったり、小学生が中学校の部活動に体験入部したり、中学校区での音楽会を開催したりする取組を推進し、小学校間や小中学校の交流が図られました。 ・様々な大会や作品展による市内小中学生の競技や発表の場を設け、児童生徒が自分の特技や努力の成果が発揮できるようにしました。
Ⅲ-3 子どもが趣味・特技を持てるようにする					
20	(仮称)文化・伝統・芸術ふれあい事業	社会教育課	<p>子ども達が歴史・文化・伝統にふれる機会を増やし、ふるさと松戸を愛する心を育みます。市内にある様々な文化施設に、子ども達が訪れやすいようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県事業の「伝統芸能継承者育成事業」(旧:平成24年度伝統文化ふれあい体験事業)の実施に伴い、市内事業実施団体への支援を行いました。 ・市内の学生に優良な舞台芸術を通して感性を育てるため文化振興財団の共催自主事業で鑑賞教室等の参加を実施しました。 	

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

基本 目標	事業 名称	担当課	事業概要	平成22年度～平成26年度のまとめ	
IV-1 子どもの健康・成長を支援する					
IV 全ての 子ども が健 やか に成 長す るこ とが でき る	21 障害のある子どもに対する地域支援の充実	障害福祉課 健康福祉会館 子ども家庭相談課 子育て支援課 幼児保育課 教育研究所	<p>誕生から学齢期までの障害のある子どもへの支援を継続し、より充実させていくためには各課の連携を基本とした、仕組みとしての障害児の地域支援システムを確立していくことが重要です。</p> <p>システムづくりには障害児に関わるすべての関係機関による実務者会議等を持ち、障害児支援を進めていく上での問題点を共有し、しっかりと連携した支援により安心してサポートが受けられることが望まれます。</p> <p>障害福祉計画の中で、障害のある子どものための支援について、障害福祉課、子ども発達センター、保健福祉課、子育て支援課、保育課、教育委員会教育研究所等の関係部署の連携体制を構築し、学校、保育所、幼稚園、障害児施設、放課後児童クラブ等の地域の支援の充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年に松戸市地域自立支援協議会「こども部会」を立ち上げました。 ・障害のあるこどもとその家族の「相談と支援」について、現状や課題を共有し、地域の中で安心して生活するために必要な「支援」について検討することを目的とし、平成25年6月より毎月部会を開催しました。障害児等療育支援事業所や特別支援学校、ほっとねっと、訪問看護ステーションや発達センターなどの職員が委員となり、課題を検討しました。 ・平成25年にこども発達センターが障害児相談支援事業所として指定を受け障害児支援の更なる充実を図りました。 	
	IV-2 子どもが抱える問題をなくす				
		児童家庭支援センターとの連携(再掲)	子ども家庭相談課	(上記のとおり)	(上記のとおり)
22	(仮称)若者塾の実施	子どもわかも課	<p>地域社会で活躍するさまざまな職業や経歴の大人たちと触れ合い、生き方や働き方の多様性に気づくことにより子どもが自らの可能性を信じて成長することを支援できるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市協働事業「ゲットユアドリーム」を平成24年度から開催し、中高生に対し、様々な世代・経歴の大人の価値観に触れる機会を与え、自ら将来について真剣に考える場を提供しました。 	

次世代育成支援行動計画(後期計画)の実績報告

資料1

●基本事業の実績報告

項目		前期計画		後期計画	
		21年度		26年度	
		目標事業量	実績	目標事業量	実績
通常保育事業 (認可保育所)	入所児童数	5,351人	4,640人	4,936人	5,281人
特定保育事業	定員	0人	4,128人 (延人)	83人	9,181人 (延人)
	箇所数	0ヶ所	7ヶ所	10ヶ所	14ヶ所
延長保育事業	利用児童数	1,162人	14,210人 (延人)	1,194人	22,506人 (延人)
	箇所数	36ヶ所	36ヶ所	37ヶ所	55ヶ所
トワイライトステイ	人数	(定員)6人	25人	25人	25人
	箇所数	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
休日保育事業	定員	120人	0人	50人	0人
	箇所数	2ヶ所	0ヶ所	5ヶ所	0ヶ所
病後児保育事業	人数	(定員)10人	961人	942人	230人
	箇所数	2ヶ所	2ヶ所	2ヶ所	2ヶ所
一時預かり事業 (保育所型)	定員	60人	5,584人 (延人)	40人	6,507人 (延人)
	箇所数	6ヶ所	7ヶ所	10ヶ所	14ヶ所
一時預かり事業	人数	-	2,624人	11,194人	15,625人
	箇所数	-	2ヶ所	5ヶ所	4ヶ所
ショートステイ事業	箇所数	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
放課後児童健全育成 事業	人数	(定員)1,880人	2,037人	2,105人	2,959人
	箇所数	44ヶ所	42ヶ所	44ヶ所	44ヶ所
放課後こども教室	箇所数	-	3ヶ所	3ヶ所	10ヶ所
地域子育て支援拠点 事業	箇所数	5ヶ所	16ヶ所	18ヶ所	19ヶ所
ファミリー・サポート・セ ンター事業	箇所数	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所